



TITLE:

円形の殻のマツバガイ (軟体動物)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 円形の殻のマツバガイ (軟体動物). くろしお 2012, 31: 25-26

ISSUE DATE:

2012

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188236>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

くろしお, (31): 25-26, 2012

円形の殻のマツバガイ（軟体動物）

Shin KUBOTA : Spherical shell of *Cellena nigrolineata* (MOLLUSCA)

久保田 信

マツバガイ *Cellena nigrolineata* は日本産カサガイ類中で最大の巻貝である（久保田・鳥越, 2000；築地新ほか, 2002）。今回、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する瀬戸臨海実験所“北浜”で、2012年9月1日にマツバガイのほぼ円形の殻が打ち上がった。この“北浜”の船着き場に2012年9月3日に生息していた通常の楕円形の殻を持った2個体（図1；表1）と比較するまでもなく、その差は一目瞭然である。問題の円形の殻の内面はオレンジ色の筋痕の部分がほとんどを占めていたので（図2）、その部分より外側の殻のほとんどが亜潮間帯にたまっている砂利などで波浪などにより削られ、円形に近い不思議な形の殻になったと推察される。本例をこれまで報告済みの巨大個体の殻（久保田・鳥越, 2000；築地新ほか, 2002）とも比較しながら記録したところ（表1）、マツバガイは老成すると、殻の形が丸くなる傾向があるのではないかと推察された。

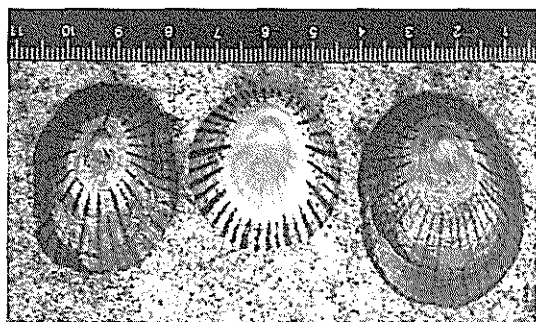


図1 和歌山県白浜町に所在する瀬戸臨海実験所“北浜”に打ちあがったマツバガイの円形の殻（中央）と生きた通常個体（左右）



図2 和歌山県白浜町に所在する瀬戸臨海実験所“北浜”に打ちあがったマツバガイの円形の殻の内面（やや斜めより撮影）

表1 マツバガイの様々なサイズの殻の計測値例

殻長, 殻幅(mm) ; 産地 引用文献 両者の比			
34, 31;0.91	白浜	円形の本例（図1, 中央）	
44, 34;0.77	白浜	通常個体の本例（図1, 右）	
39, 28;0.72	白浜	通常個体の本例（図1, 左）	
80, 68;0.85	白浜	久保田・鳥越, 2000	
76, 62;0.82	宇和海	久保田・鳥越, 2000	
78, 61.5;0.79	向島	久保田・鳥越, 2000	
86, 72;0.84	鹿児島	築地新ほか, 2002	

くろしお, (31): 26, 2012

引用文献

久保田 信・鳥越兼治. 2000: マツバガイ (軟体動物門、原始腹足類) の大形個体. 南紀生物, 42 (2), 99-100.

築地新光子・築地新チサ・久保田 信. 2002: マツバガイ (軟体動物門、原始腹足類) の日

本最大の野生個体. 南紀生物, 44 (2), 106.

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)